
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 402 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2017.07.14（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 979 部*****

07/22（土）に行なわれる、「山崎農業研究所：総会・山崎記念農業賞
表彰式・記念フォーラム」のご案内をさせていただきます。

今年の山崎記念農業賞は、愛媛県松山市釣島集落に送られます。
離島を、そして集落を対象にした表彰ははじめてです。

釣島の長年の取り組みを、離島固有の課題解決のありかたとしてとらえる
のではなく、そこには、いまの日本の条件不利地域全体にとってのヒントが
ある——そんな主旨に沿っての表彰です。

皆さまの参加をお待ちしております！
会員外の方の参加も大歓迎です！

■山崎農業研究所：総会・山崎記念農業賞表彰式・記念フォーラム

□日時：2017年7月22日（土）13：00～17：30

□場所：NTC コンサルタンツ（株）大会議室

（東京都中野区本町1丁目32番2号ハーモニータワー20F）

□プログラム

1. 総会……13：00～13：40

2. 山崎記念農業賞表彰式……13：40～14：30

(1)所長挨拶

(2)選考過程報告：山路永司（選考委員）

(3)表彰式：釣島集落（愛媛県松山市泊町）町内会長・池本三嗣

(4)受賞者挨拶：釣島町内会長・池本三嗣

3. 記念フォーラム……14：30～17：30

瀬戸内海の小さな島「釣島」から本来の「農業」と「暮らし」を学ぶ（仮）

(1) 解題：山崎農業研究所所長・小泉浩郎

(2) 現地からの報告

＊「離島のマイナスを地域づくりの原動力に」：町内会長・池本三嗣

＊「柑橘で釣島を“宝の島”に」JA 釣島支部長・山岡建夫

(3) 記念講演：「今、離島は元気」離島経済新聞社代表・大久保昌宏

(4) 話し合い

4. 懇親会……18：00～20：00

参加申し込み

資料準備等のため参加希望者は事前に下記へご連絡下さい。

TEL：080-2061-4227（事務局・益永携帯）

E-Mail：yahiro_mas@hb.tp1.jp（個人 Mail アドレス）

E-Mail：yamazaki@yamazaki-i.org（山崎農研の Mail アドレス）

目次 -----

<巻頭言> 「ナイナイ島」に農業・農村の今後を学ぶ 小泉浩郎

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.141』内容案内

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 「3つの原則」「3つの関係性」から現代をみる

<巻頭言> 「ナイナイ島」に農業・農村の今後を学ぶ

瀬戸内海に浮かぶ松山市「釣島」は、19戸が暮らす小さなみかんの島です。つい最近まで、土地がない、水がない、定期船がない、病院もない、学校は小学校だけという「ナイナイ島」でした。

中学からは、子どもたちは親元を離れ、町に下宿します。なんでも便利な町の経験した子どもたちは島に戻り、農村・農家の後継者になります。25歳くらいになると、島の外から配偶者を迎えます。ここでは後継者不足、お嫁さん不足の話は聞かれません。

この「ナイナイ島」のどこに、子どもたちを後継者として島に引き戻す力があるのでしょうか？ 農業の経験もない若い女性たちを惹きつける「釣島」の魅力は何なのでしょうか？ 現地のみなさんをお招きし、話を伺うこととし、

第 41 回山崎記念農業賞をお贈りすることにしました。

国は躍起になって「強い農業・攻めの農業」を押し進めています。その路線上では、この国の農業のほとんどを占めている家族農業経営、第一種・第二種兼業農家の姿はほとんど見えず、集落の自治的活動も無視されようとしています。

「釣島」では「強い農業・攻めの農業」とは異なる、この国の農業・農村のあり方を学ぶことができるように思います。

当日の記念フォーラムには、釣島町内会長、JA 釣島支部長が出席されます。皆さんの参加をお待ちしております。

小泉浩郎
山崎農業研究所所長
yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.141』内容案内

山崎農業研究所所報『耕 No.140』の内容を紹介いたします。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

(巻頭言) 食べる〈哲学〉を求めて◎戎谷徹也

[第 156 回定例研究会] 自然災害と文化・技術 II

技術にも自治がある——日本人の伝統的自然観と水防技術◎大熊 孝

[第 157 回定例研究会]

農の営みから現代社会を読む——アフリカと日本のまなざし◎勝俣 誠

参加者の声◎松田彩花／石崎 周／白鳥清志／長濱和代

[特別寄稿]

共有と協働による農業支援：農業現場における

「半当事者」の役割◎横山繁樹

タイ北部少数民族・アカ族の自立に向けて

国際協力1年生の活動ノートから◎乾 多津子

イスラーム農村における女性の活躍◎高木 茂

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(12)

農の本質へのもうひとつの接近

——無意識の仕事に支えられて在る天地自然観／宇根 豊

〈農村定点観測〉

三浦の「うまい」を伝えたい／神奈川県・高梨雅人

土地改良区はもう一歩踏み込んだ制度改革が必要／鹿児島県・井尻吉門

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』
農文協、199ページ、定価1700円（税別）

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

※山崎農研HPに関連記事を掲載しています。

玉川上水の奇跡「ひとくい川」（第3話）連載 安富六郎 著

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No10.pdf 第8話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No9.pdf 第7話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No8.pdf 第6話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No7.pdf 第5話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No6.pdf 第4話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No3.pdf 第3話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No2.pdf 第2話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No1.pdf 第1話

<編集後記> 「3つの原則」「3つの関係性」から現代をみる

山崎農業研究所所報「耕」の最新号（141号）では、勝俣誠氏（明治学院大学名誉教授）の講演記録「農の営みから現代社会を読む—アフリカと日本のまなざし」を掲載している。本講演のテーマは、現代社会における「関係性、つな

がりの危機」をどう読むかである。冒頭、勝俣氏は次のように述べている。

「人間世界にまつわる3つの原則を述べておきたいと思います。『人を殺さない』『自然を未来のために壊さない』『弱者に居場所を』——この3つは、あらゆる体制論を議論するうえでの根本原則だと私は思います。この3つの原則は、言い換えれば、人間と人間とのつながり、人間と自然とのつながり、そして弱者とのつながりを大事にせよとっている」。

人と人との関係、人と自然との関係、そして弱者との関係がなによりも大事だという価値観の表明がここにはある。そして、この「3つの原則」、「3つの関係性」が脅かされているのが現代であり、具体的には、なくなる武力紛争や地球環境問題、経済社会格差などといった問題があるのだと。

だとすれば、「関係」のありように注目し、「関係」をつなぎ直すことは、よりまともな世界の展望につながるだろう。そして、こういったモノゴトを考えるうえで、「農の営み」（農業ではないことに注意）が参考になる、レファレンス＝分析のためのツール、教材（ティーチングマテリアル）になる、というのが勝俣氏の主張であって、大いに刺激と勇気を得るものだ。

ところで先の都議選（07/02）で自民党は歴史的な大敗を喫した（57議席から23議席へ）。豊田議員の秘書へのハラスメント、萩生田議員の加計学園問題への関与疑惑、下村議員の寄付金問題、応援演説での稲田防衛大臣の「防衛大臣としてお願い」発言等々あるが、とどめを刺したのが「こんな人たちに負けるわけにはいかないんです」という安倍首相の街頭演説での発言だった。そこにあるのは、敵と味方で分断しようとする傲慢な政治手法であり、「関係」はあくまでも身内で閉じている。

都議選以降、政権支持率は急速に下がっているというが、政権与党の根本的なオカシサに人びとの不信と不満が高まっているということだろう。そんななかでわたしたちがあらためて大事にすべきは、「3つの原則」、「3つの関係性」だと言えるのではないか。

2017年07月14日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)
グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 —グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158 / しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 403 号の締め切りは 07 月 24 日、発行は 07 月 27 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 402 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2017.07.14 (金) 発行 山崎農業研究所&編集同人

mailto:yamazaki@yamazaki-i.org

***** ここまで『電子耕』 *****